

たちつとちぎ

JA全農とちぎ 通信

2023

8

Vol.269



特集

JAグループ栃木の総力結集!

『第22回 パワフルアグリフェア』開催!!

栃木のにらの生産基盤の維持・拡大に向けて

宇都宮大学と連携し「ゆうだい21」をPR

保育園児にお米をテーマに食育イベントを実施

栃木の花き生産者が集結 花業界の発展に向けて

とちぎの花マルシェを初開催

初夏の旬の味 “今朝採り”とうもろこしを販売

和牛去勢の部で最優秀賞受賞!

千葉の精肉店で「とちぎ霧降高原牛」をPR

トピックス

CONTENTS

- ・お知らせ
総物流センター竣工式
- ・簡単レシピ
『豆乳で冷やし坦々そうめん』
- ・子牛市場情報
- ・JAタウンからのお知らせ
- ・行事予定
- ・編集後記



©栃木県 とちぎまるくん

JAグループ栃木/JA全農とちぎはSDGsが目指す社会の実現に貢献しています

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



特集

JAグループ栃木の総力結集！『第22回

生産振興とJAグループへの結集を図り、

JAグループ栃木は7月22日、23日の2日間、宇都宮市のみずほの自然の森公園で“第22回パワフルアグリフェア”を開催しました。コロナ禍で中止または縮小開催が続く、従来の規模での開催は4年ぶりとなりましたが、ステージイベントや食事提供の復活に伴い、会場は昨年以上の盛り上がりを見せました。

開会式では本会運営委員会の菊地会長が「ご来場された皆様に満足いただけるよう、的確な情報提供と懇切丁寧な対応を行ってほしい」と呼びかけ、職員やメーカー各社を鼓舞しました。

会場には、27のメーカー各社の最新農業機械をはじめとし、各種生産資材や営農情報の展示などがずらりと並びました。メインとなる農機展示では、メーカー各社が誇る新型農機に加え、ICT・AI等の最新技術を搭載した機械も多く展示されました。

このほか、「みどりの食料システム戦略」に対応した各種生産資材や低コストタイプの肥料・農薬の展示、中古農機のブースなどは、昨今の社会情勢変化や生産コスト高の影響もあり、来場者の注目をひと際集めました。

2日間を通し、生産者だけでなく一般消費者の方にも多くご来場いただき、県内の多くの方に栃木の食や農業と触れ合う機会を作ることができました。

今後もJAグループ栃木が一丸となり、生産者や地域の皆様のために、持続可能な農業の実現に向けた取り組みを進めてまいります。



食・販売ブース



プレックスの選手が県産青果物を販売



とちぎゆめパーク入り焼きそば



とちぎ和牛

ステージイベント



原俊作さん



ハリウリさん



プレクシーのパフォーマンス

『パワフルアグリフェア』開催！！

持続可能な農業を実現します



展示・情報発信コーナー



多くの来場者でにぎわう会場



中古農機情報



自動運転の実演



心を入れてメッセージ



食育コーナー



特集

栃木のにらの生産基盤の維持・拡大に向けて 1年1作連続収穫栽培への挑戦 一反収向上を目指してー

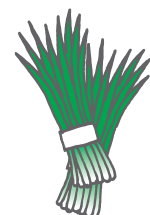


栃木県のにらは2年1作が従来の作型となっています。令和4年より新たな栽培方法を導入し、一反収向上が見込める『1年1作連続収穫』の確立に向けた実証試験栽培を行っています。本年産は、肥培・かん水管理を見直し、目標反収6.0トン達成に挑戦しています。営農販売企画部は県と連携し、栃木のにらの生産基盤維持・拡大に取り組んでいます。

◆定植直後の圃場(令和4年6月)



◆収穫直前の圃場(令和4年8月)



1年1作栽培では、定植前より赤色防虫ネットとPOフィルムを被覆し、ハウスで管理します。畝は25～30cmの高畝にし、点滴チューブを設置し、有孔マルチを張ってからの定植となり、梅雨明け後に光質コントロール遮光ネットを被覆します。冬期よりウォーターカーテンで栽培管理を行います。

↓8月時点のアザミウマ被害状況
(左：1年1作、右：慣行)



被害なし



被害あり

取組生産者に聞いた！1年1作栽培のメリット



- ①効率的な圃場の利用→限られた面積・期間で収量を確保できた。
- ②除草作業や農薬使用の軽減→定植前からのマルチ展張により、除草剤を使用せずに栽培できた。
- ③生育に応じた給液・かん水が可能→天候に左右されにくくなるため生育が良好になり、病害虫や葉先枯れが低減できた。
- ④早期(端境期)に収穫開始→近年、高値傾向となっている8月下旬～年内に総収量60%分を出荷できた。

【にら】	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年1作連続収穫栽培体系	播種	ハウス準備	定植												作終了		定植					
慣行2年1作栽培体系	播種		定植																			
			ハウス準備	ハウス準備・給液																		
			露地																			

○ 播種 △ 定植 ☆ 抽だい 〇 ハウス準備 〰 収穫 ✕ 作終了

営農・経済担当者向けににら研修会を開催

営農販売企画部は6月22日、JAかみつが南部営農経済センターで営農・経済担当者を対象ににら研修会を開催しました。

当日は、JA、県の担当者など52名が集まり、座学での講義と1年1作連続収穫栽培試験を行う生産者の圃場で現地視察を行いました。

講義では、県担当者から栃木県のにらの生産・販売状況、栽培・管理や、1年1作連続収穫の確立に向けた実証試験の取組について説明がありました。

現地視察では、試験概要の説明後、圃場を見学し、栽培試験について県担当者らと意見交換を行いました。参加したJA担当者からは、「1年1作栽培についてはとても気になるので、今後も情報提供をいただきたい」との要望がありました。



宇都宮大学と連携し「ゆうだい21」をPR



学生が店頭で試食販売を実施

パールライス部は6月17日、県産米の更なる販売拡大と認知度向上を図るため、本銘柄を開発し普及を進める宇都宮大学と連携し、市内のフードオアシスオータニ2店舗で栃木県産「ゆうだい21」の試食販売PRを行いました。

本商品は、「ゆうだい21」の認知度向上に取り組む宇都宮大学と本会が協力して、今年1月中旬に新商品として販売を開始し、普及を進めています。

当日は「ゆうだい21」の研究に携わる農学部の学生が自ら店頭に立ち、お客様に試食を勧め、購入を呼びかけました。試食したお客様は「甘味と粘りが強くとてもおいしい」と話し、試食販売PRを実施した4時間で約60袋の販売に繋がりました。

試食販売PRに参加した学生は「販売する部分を経験できるので大変勉強になった。『ゆうだい21』を知らないお客様に試食していただき、魅力を伝えることで購入に繋がり、やりがいを感じた。」と話しました。



お客様に「ゆうだい21」をPR



【商品イメージ】

保育園児にお米をテーマに食育イベントを実施



パールライス部は7月上旬～中旬にかけて、ケアパートナー株式会社様が運営する東京都・神奈川県計26園の保育園児を対象とした食育イベントを実施しました。

本イベントは、園児たちに「食」の大切さを知ってもらうため、新生食品株式会社様と連携し「食育」の取り組みの一環として行いました。

お米の生育・栄養について紙芝居で読み聞かせを行った後、実際ににおにぎりを作り食べていただくことで、ご飯を食べることの大切さと栃木県産米の美味しさをPRしました。

本会立ち会いのもと実施した2園の園長からは「食育は生きる力だけでなく、学校の勉強につながることですべてが学べる。子どもたちも楽しんで参加しており、お米と触れ合うことのできる貴重な経験になった」とコメントをいただき、今回の食育イベントを通じて多くの園児たちに「食」や「お米」の大切さに触れていただくことができました。



オリジナル紙芝居の読み聞かせ



おにぎりを作る園児たち

栃木の花き生産者が集結 花業界の発展に向けて

令和5年度栃木県花き生産者大会

本会園芸部と（一社）とちぎ農産物マーケティング協会は7月10日、「令和5年度栃木県花き生産者大会」を開催しました。当日は各産地JAの生産部会・生産団体や県、関係機関から約100名が出席し、昨年度の各種展覧会における受賞者表彰、講演会、取り組み報告などを行いました。

表彰式では、令和4年度『栃木県花の展覧会』・『栃木県花き立毛共進会』・『関東東海花の展覧会』における上位入賞者の表彰があり、それぞれ入賞を果たした鈴木宏美さん・福田桂祐さん・鈴木一裕さん・渡辺邦仁さんに対して栃木県の熊田農政部長より表彰状が手渡されました。また、花き部会の組織活動に尽力された水沼一貴さんにはとちぎ農産物マーケティング協会の荒井理事長より感謝状が手渡されました。

講演会では、（株）第一花き取締役の田先仁美様より「これからのマーケットについて」と題した講演があり、時には一般消費者の目線に立ち、常に変化する社会・マーケットをしっかりと分析することの重要性を訴えました。

大会の最後には、県からジャパンフラワー強化プロジェクト推進に伴う生産供給体制強化の取り組み結果についての報告や情報提供がありました。



田先様による講演の様子



農林水産大臣賞を受賞した2名（左：鈴木宏美さん 右：福田桂祐さん）



とちぎの花マルシェを初開催

宇都宮市役所でオリエンタルユリを販売

園芸部は7月14日、宇都宮市役所で「とちぎの花マルシェ」を開催し、宇都宮市役所職員や市役所を訪れた市民らを対象に、JAうつのみや産のオリエンタルユリの販売会を行いました。

花の需要が落ち込み、買い手が少なくなる夏の時期に「とちぎの花」と触れ合う機会をつくり、夏場でも良い花があることを多くの方に知っていただきたいという想いで企画しました。

当日ユリを販売したJAうつのみやの担当者は、「消費者にユリの魅力を知っていただき、少しでもユリを好きになってもらいたい。栃木のユリの主要産地として、周年出荷できる当産地の役割を果たすため、今後も細かく生産計画を立てるなど、1年間を通じた安定供給を目指し、魅力あるユリを届けられるよう、産地一丸となって努めていく」と話しました。



花を買い求める市民

初夏の旬の味 “今朝採り”とうもろこしを販売

6月26日からおよそ1か月間、県内のスーパー「たいらや」18店舗においてJAおやま産の今朝採りとうもろこしの販売を行いました。初夏の旬の味“とうもろこし”は鮮度が命の野菜であるため、店頭に並ぶ当日の早朝に採れたばかりのとうもろこしは鮮度が抜群で、甘みが強くみずみずしいのが特徴です。

この取り組みは今年で6年目になりますが、旬で採れたての味を楽しめるということで、毎年好評をいただいております。

地元の採れたて野菜の販売ができるのは、県内の量販店だからこそできる取り組みです。本会は今後も地産地消の取り組みを推進し、産地と消費者を結ぶ活動に引き続き積極的に取り組んでまいります。

和牛去勢の部で最優秀賞受賞！

第25回全農肉牛枝肉共励会

7月7日、東京都中央卸売市場食肉市場で「第25回全農肉牛枝肉共励会」が開催され、栃木県勢では第1部和牛去勢の部で、松本昭二さん(JAおやま)が最優秀賞を受賞しました。

松本昭二さんの出品牛は、枝肉重量632.0kg、キロ単価5,001円、等級A5、BMSナンバー 12、ロース芯面積107cm²という素晴らしい枝肉でした。

和牛去勢の部における栃木県勢の最優秀賞受賞は昨年に引き続き2年連続であり、同部門の最高位である名誉賞の獲得に向けて県内では盛り上がりを見せています。

今回の共励会は、第1部 和牛去勢の部には214頭、第2部 和牛牝の部には88頭、第3部 交雑種の部には32頭、合計334頭が18都県より出品され、その中で4名の県内生産者が受賞となりました。受賞された皆様おめでとうございます！受賞者は以下のとおり。(敬称略)

【受賞者一覧】

部 門	氏 名	JA名	褒 賞
第1部 和牛去勢	松本 昭二	お や ま	最優秀賞
第2部 和 牛 牝	近藤 美好	お や ま	優 良 賞
第3部 交 雑 種	神田 俊光	しもつけ	優 秀 賞
	(株)手塚畜産	しおのや	優 良 賞



第1部最優秀賞の枝肉
(松本昭二さんの出品牛)



第3部優秀賞の
神田俊光さん

千葉の精肉店で「とちぎ霧降高原牛」をPR

畜産部は7月15日、首都圏を中心に全国的に展開している精肉店『肉処大久保』の千葉県の店舗にて、「とちぎ霧降高原牛」のPRおよび試食販売を行いました。

当日は、7月7日に開催された「第25回全農肉牛枝肉共励会」の交雑種の部で優良賞を獲得した(株)手塚畜産の「とちぎ霧降高原牛」が店頭で販売され、(株)手塚畜産の手塚優子さんやJAしおのやの担当者らが店頭に立ち、自らPRを行いました。

PRの際には、「とちぎ霧降高原牛」指定生産者が、牛の排出するメタンガス削減が期待される『ルミナップ』を飼料に加えて、いち早く環境保全に取り組んでいることを掲載したチラシを配布しながら消費者へアピールしました。



お客さんに商品を勧める手塚優子さん(中央)

13 気候変動に
具体的な対策を



お知らせ

総合物流センター竣工式

本会は7月6日、総合物流センターの竣工式を執り行いました。総合物流センターは平成16年の設置以来、運営を行ってまいりましたが、岡本駅西口再開発工事に伴い中里町の地へ移転することとなりました。

当日は本会職員や(株)JAグリーンとちぎ、(株)浜屋組の関係者ら18名が出席し、新たな総合物流センターの完成を祝いました。

施主として、本会運営委員会の菊地会長は「農業や物流業界を取り巻く環境は刻々と変化しており、生産現場においても安定供給へのニーズは一層高まっている。農家組合員に対し、より充実したサービスが提供できるよう、新センターの円滑な運営に努めていく」と挨拶をしました。



竣工した総合物流センター



関係者らによるテープカット

簡単レシピ

豆乳で冷やし坦々そうめん



ポイント！



栃木推進課 管理栄養士
高橋雲世さん

大豆たんぱく質は体内での吸収・分解に時間がかかり満腹感を得やすいため、大豆たんぱく質をたっぷり含んだ豆乳は、ダイエットの強い味方になってくれます。

(アドバイス表2022年8月あじわいコースP29)

〈材料〉(2人分)

・豚肉切り落とし	150g
・そうめん	200g
・万能ねぎ(小口切り)	適量
・白ごま	適量
・糸唐辛子	適量
・ラー油	お好みで
・油	少々
① みそ	大さじ1
酒・はちみつ	各大さじ1/2
豆乳	250ml
水	150ml
② めんつゆ(3倍濃縮)	大さじ3
すりごま	大さじ2
ごま油	小さじ2

■作り方■

- ① ボウルに②を合わせて冷蔵庫で冷やす。豚肉は粗目に刻む。
- ② フライパンに油を熱し豚肉を入れ、色が変わってきたら①を入れて肉みそを作る。
- ③ 鍋にたっぷりのお湯を沸かし、沸騰したらそうめんを時間通りに茹で、茹であがったらザルにあげ、冷水で洗い、水気を切る。
- ④ 器に③を入れ、②を盛り、①のつゆをかける。万能ねぎと白ごまを散らし、糸唐辛子をのせ、お好みで仕上げにラー油を回しかける。

ふれあい食材についてはこちらから！





子牛市場情報

令和5年度7月矢板家畜市場成績書

	性別	上場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重(日令)	単価(kg)	前回比
1日	雌	170	166	778,800	50,600	488,843	293(291)	1,665	-53,103
	雄	—	—	—	—	—	—	—	—
	去勢	265	256	992,200	133,100	659,041	324(287)	2,029	-53,237
	合計	435	422	992,200	50,600	592,091	312(288)	1,894	-41,796
2日	雌	167	165	867,900	207,900	501,873	298(293)	1,683	-54,500
	雄	—	—	—	—	—	—	—	—
	去勢	231	221	1,026,300	254,100	600,246	327(289)	1,832	-146,926
	合計	398	386	1,026,300	207,900	558,195	315(290)	1,771	-105,000
7月期合計	雌	337	331	867,900	50,600	495,338	298(292)	1,674	-53,996
	雄	—	—	—	—	—	—	—	—
	去勢	496	477	1,026,300	133,100	631,801	326(288)	1,937	-99,122
	合計	833	808	1,026,300	50,600	575,899	313(289)	1,835	-73,374
概況	7月の矢板家畜市場は、833頭上場にて808頭が成立し、前年同月比11頭増となりました。平均価格は対前月比雌53,996円安、去勢99,122円安となりました。 6月期全国子牛相場を受けて、雌去勢ともに大きく値を下げた取引となりました。 購買者数 1日目：144人 2日目：146人								

○次回開催/2023年8月1日～2日 出場予定:各350頭(2023年9月の開催は、7日・8日です。)

とちぎ新鮮倉庫からのお知らせ



季節商品のご紹介

「とちぎの梨(幸水)」

“しゃりしゃり”した食感に味わいジューシーな梨はいかがですか?「幸水」は甘みが強く、果汁たっぷりの果肉が特徴です。

果汁たっぷりなので夏場の水分補給にも最適です!是非ご賞味ください♪

他にも厳選した『とちぎの味』を取り揃えております♪

JAタウン



とちぎ新鮮倉庫

検索

8月の行事

- 1日(火) 矢板子牛市場 畜産部
- 2日(水) 矢板子牛市場 畜産部
- 18日(金) 梨トップセールス 園芸部
- 21日(月) 全体職員研修

2日・9日・16日・23日・30日(水) RADIO BERRY (17:15~)

編集後記

8月です。先日テレビから「暑さも災害です!」と聞こえてきてゾッとしました。危険な暑さが続きますので、体調には十分お気をつけください…。夏野菜は体を冷やす効果もあるようですので、夏バテ対策にも夏野菜たくさん食べて元気に過ごしましょう!

個人的には、大好きな梨の時期が近づいてきてワクワクしています…(みう)



栃木が誇る高品質交雑牛

とちぎ霧降高原牛



とちぎ霧降高原牛とは…

J A 全農とちぎが認定した指定生産者によって肥育された交雑牛（♂和牛×♀ホルスタイン）であり、年間約2,750頭出荷されています。

とちぎ霧降高原牛の指定生産者はJ A 東日本くみあい飼料(株)が製造・販売する「IPマーブルシリーズ」と呼ばれるエサを給与することで、肉質・食味の斉一化を図るとともに安心・安全な牛肉の生産に努めております。

全農肉牛枝肉共励会

第10～20回、22～24回

最優秀賞受賞

とちぎ霧降高原牛は地球の環境保全に積極的に取り組んでいます。

環境保全への取り組み

昨今、気候変動問題を中心とした地球温暖化への懸念から、畜産、特に牛に対する風当りは強くなっています。牛は胃でエサを消化する際、温室効果が二酸化炭素の約25倍もあるといわれているメタンを発生させることなどが主な要因です。

これらを踏まえ、J A グループ栃木交雑種販促委員会(事務局：J A 全農とちぎ畜産部)とJ A 東日本くみあい飼料(株)では、2022年9月より「IPマーブルシリーズ」に機能性飼料(ルミナツプ)を添加することにより牛の排出するメタンガスを削減することにいち早く取り組みました。

機能性飼料
(ルミナツプ)とは？

ルミナツプはカシューナッツの殻を圧搾して抽出した液体を主成分としており、牛の第1胃内のメタンガスの発生を抑制する効果が期待されています。

13 気候変動に
具体的な対策を



2015年9月に国連で採択された、SDGs(持続可能な開発目標)の13番目の目標「気候変動に具体的な対策を」では気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じることを目指しています。「とちぎ霧降高原牛」はこの問題に安心・安全な畜産物の基礎であるエサに「ルミナツプ」を加えることで取り組んでいます。



この印刷物は環境にやさしい植物油
インクと再生紙を使用しています。



私たち全農グループは、生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。